

2019 SUPER GT 第4戦
 チャン・インターナショナルサーキット
 2019年6月29日(土)

予選 来場者：未発表 天候：曇り時々晴れ

SUPER GT で、唯一の海外戦となる第4戦。開催地は、タイのプリーラム、チャン・インターナショナルサーキット。ここでシリーズは、折り返しを迎えることとなる。前戦の鈴鹿では、チームメイト 36号車に次いで2位に入っている37号車は、今回も順調にセッションを消化して予選に臨んだ。一昨年ポール to ウインを達成している当地は、相性がよく、得意とするサーキットであり、38キロのウェイトハンディを感じさせない勢いでQ1を突破、Q2では36号車に続いて5番手グリッドを獲得し、決勝レースに臨むこととなった。



- 午前中に行われた練習走行では安定して好タイムで周回を重ね、予選、決勝に向けてのチェックも終えてQ1に臨んだ。Q2進出には不可欠な1分23秒台に突入、6番手で突破。
- 平川 亮がQ1のタイムアタックを担当し、Q2は、ニック・キャンディが担当した。
- ウォームアップからタイムアップし、計測4周目にベストタイムをマーク。
- 36号車に100分の14秒遅れで、5番手グリッドを獲得。
- 決勝のグリッド、3番手から5番手までが100分の16秒差の中に収まっているという極僅差でグリッドを分ける結果となった。

| Driver | Car No. | Qualifying 1 | | Qualifying 2 | |
|-----------|---------|--------------|-----------|--------------|-----------|
| 平川 亮 | 37 | P6 | 1' 23.914 | P5 | |
| ニック・キャンディ | | | | | 1' 23.471 |

| | |
|---------|-----------------|
| 天候/路面 | 曇り時々晴れ/ドライ |
| 気温/路面温度 | 33~34°C/40~45°C |

平川 亮 (37 号車ドライバー)



「前戦の鈴鹿よりは、セットアップが決まっている感じではなかったですが、その状況下でも5番手という結果は、まずまずだったと思います。練習走行からタイムアタックの一発よりも、決勝モードのロングランの方が調子良かったです。タイヤのグリップダウンも少ないと思うので、前のマシンたちのタイヤがグリップダウンして来たら、かなりチャンスはあると思います。限られた時間の中でのセットアップは上手く進んだので、今回は手ごたえがあります。一つでも順位を上げ、ポイントを獲得し次の富士に臨みたいですね」

ニック・キャンディ (37 号車ドライバー)



「朝の練習走行から、かなり良い状態だったと思う。まず亮がセットアップを決めて、自分が決勝のロングランをチェック、2 セットのタイヤをトライし、燃料もたくさん積みました。乗り込んでから、マシンバランスがとても良く順調でした。結果的に 2 セット目のミディアムタイヤを予選と決勝のスタートに向けてチョイスしました。36 号車とともに好位置から決勝をスタートできます。決勝はかなり良い結果を出せるんじゃないかなと期待しています」

小枝正樹 (37 号車エンジニア)



「マシンの状況は、悪くはないですが、ちょっと詰めが足りないかなという部分がある状況です。両ドライバーが予選前にバランスとタイヤの確認を確実にしてくれたのですが、少しオーバーステアが出ていたのが、タイム的に少し足を引っ張ってしまったかなと反省しています。オーバーステアが出ていなかったら、ポールはいけたかなと思いますね。ウェイトハンディもそれほど悪影響を感じませんし、決勝の前のサーキットサファリとウォームアップで修正し、決勝に臨みます」

山田 淳(37号車監督)



「思っていた以上に良い予選の戦いことができました。特にウェイトハンディを考えると上出来の結果でしたね。TRDさんもエンジンに関して開発してきていただいているので、総合力でアップしています。亮、ニックともに頑張ってくれましたが、予選結果3番手から我々の5番手までがものすごく僅差だったので悔しさも残る予選でした。ポールポジションの6号車とはタイヤチョイスが異なります。うちの方が少し硬め。それが、最初のステイントでどのような状況を生むのか…。次戦の富士のことを考えると、今回好成績になった場合、エンジンの燃料流量規制を受けることになり富士で苦しくなりますが、レース結果はコントロールできないので、とにかく、この一戦を頑張るのみです」

舘 信秀(総監督)



「36号車に続いて37号車が5番手グリッドに着けました。2台ともに、上位グリッドに並べるというのは、嬉しい限りです。ドライバーも含め、チームスタッフが頑張ってくれた結果ですね。前戦の鈴鹿のように2台が表彰台に立てる可能性が出て来ました。決勝でも、必ずや良いレースを見せてくれることと思っています」

2019 SUPER GT 第4戦

チャン・インターナショナルサーキット

2019年6月30日(日)

決勝

来場者: 未発表

天候: 曇り時々晴れ

2017年、ここ、チャン・インターナショナルサーキットでポール to ウィンを飾っている LEXUS TEAM KeePer TOM'S の 37 号車は、5 番グリッドからスタートし、オープニングラップで 3 ポジションを落としてしまうが、着実に挽回、ピットストップを終え 3 番手までポジションアップ。前に行く、チームメイト 36 号車とセーフティカーラン明けに接触してしまうというシーンもあったが、最後の最後までトップの 6 号車を追走、1.236 秒差で 2 位のチェッカーを受けた。



- 今回は、スタートドライバーを平川 亮が担当した。
- 1 周目の 3 コーナー(ヘアピン)で、3 番手スタートの 3 号車がイン側から寄せてきたため、接触を避けオーバーラン。1 周目は 8 位。
- 28 周してピットインをした際に、5 番手(スタートポジション)まで順位を戻した。
- セカンドスティントを担当したニック・キャンディは、タイヤをミディアムからソフトコンパウンドに変更しコースイン。さらに、ポジションアップを狙う。
- タイヤスペック変更は成功。34 周目に一気に 2 台をパスして 3 位へと躍進。
- 37 周目からセーフティカーがコースイン。42 周目にレースが再開された直後、3 コーナーで 36 号車のインに入り、サイド・バイ・サイドとなる。その際に 2 台は接触するも、2 位にポジションアップ。
- 次なる照準をトップの 6 号車に合わせて差を詰めていったが、1.236 秒の差で 2 位フィニッシュ。

| Driver | Car No. | Race Result/Fastest Lap | |
|-----------|---------|-------------------------|-----------|
| 平川 亮 | 37 | P2 | 1' 25.866 |
| ニック・キャンディ | | | 1' 25.758 |

| | |
|---------|---------------------|
| 天候/路面 | 曇り時々晴れ/ドライ |
| 気温/路面温度 | 32°C~33°C/48°C~44°C |

平川 亮 (37 号車ドライバー)



「3号車がスタートで出遅れて、3コーナーで並びましたが、イン側から一気に寄ってきたので、それを避けようと進路を変えコース外に押し出されました。順位を落とし、接触もしましたが、ダメージを受けなくて良かったです。その後は、マシンの調子が良かったので着実に順位を上げることができました。ピットイン前までにスタートポジションまで挽回しました。36号車と接触してしまいましたが、ニックが頑張ってくれ2位になりました。(獲得ポイントが増えた分)ウェイトハンディが増え、燃料リストラクターが取付られるのでこれからが頑張り時ですね」

ニック・キャンディ (37 号車ドライバー)



「マシンは最高でした。そして作戦も完璧。その結果として2位という結果が得られて最高です。しかし、勝てるチャンスは確実にありました。亮のファーストステントを見ていて、自分のステントでソフトタイヤを装着して欲しいとお願いして、OKしてもらい、それが、バッチリ当たってすぐに3位までポジションアップすることが出来ました。セーフティカーがいなくなり、再スタートする時にダッシュ。3コーナーで36号車のインに入って立ち上がった時、軽く接触してしまいました。ステアリングを握っているのは自分だから接触に関しては自分の責任と思っています。接触の相手が36号車だったことは少し複雑な気持ちです」

小枝正樹(37号車エンジニア)



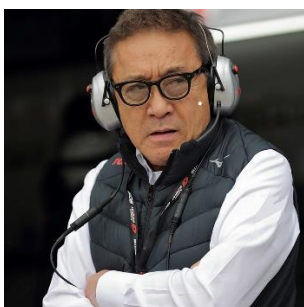
「前日のロングラン、決勝セッティングで多少改善すべき点があったので、それをサーキットサファリと短時間のウォームアップでチェックしました。そのセットアップ変更はとてうまくいったと思います。1周目に順位を落とした時には、心配しましたが、亮が落ち着いて順位を戻してくれました。ニックからの要望で、セカンドスティントにソフトタイヤを装着することを判断してコースへ送り出しました。セーフティカー明けで36号車と接触するシーンがあり、チームとしては残念な結果となってしまいました。ランキング2位になり、これから苦しい戦いが続きます。その中でも確実にポイント稼ぐことが大切ですね」

山田 淳(37号車監督)



「今回はレースの難しさが明らかになりましたね。トムスの2台が好調で、優勝も狙えるのではないかと展開でした。終盤のニックと6号車の山下健太との接戦も見応えがありました。ニックのセカンドスティントは、タイヤをミディアムからソフトに変更しました。それがセーフティカー後、タイヤの温まりが良くて36号車とのバトルへ展開しました。2台共に調子良かった故に順位を争うこととなり、チームランキングを考えれば、もちろん接触はして欲しくなかったです。改めてレースの難しさを痛感しましたが、まずは、2位獲得を喜び、後半戦へ向けて新たなスタートを切りたいと思います」

館 信秀(総監督)



「5番手スタートから見事に2位を獲得してくれました。スタート直後からの順位挽回は素晴らしかったですね。これでポイントランキングも2位に上がりました。次戦から燃料リストラクターによってパワーダウンすることになります。

今回も最大限に良いレースをしてくださいましたが、結果的に接触により36号車が順位を下げた事は、とても残念です。トムスの2台が表彰台に立つところを見たかったですね。チームオーダー無しの中で、バトルは当然です。相手がチームメイトだろうがそれは関係ない。それがレースです。しかし、トムス全体としてシリーズのランキングを考えると複雑な気持ちだったのは確かです」